

防災減災・災害復興に関する学術連携委員会（第24期・第2回）

議事要旨（案）

日時：平成30年1月26日（金）10:00～12:00

会場：日本学術会議5階 5-C（1）会議室

（※東京メトロ千代田線「乃木坂駅」5番出口 徒歩1分）

出席者：米田雅子委員長、田村和夫幹事、渡辺美代子委員、大西隆委員、中島映至委員、依田照彦委員、和田章委員（7名）

欠席者：武内和彦委員、小池俊雄委員（2名）

事務局：糸川参事官、高橋参事官補佐、駒木審議専門職付、石尾審議専門職付

議題：1) 前回議事録案の確認

2) 公開シンポジウム「2017年九州北部豪雨災害と今後の対策」の開催報告

3) 次年度の防災減災学術連携委員会としての延長について

4) 次年度の防災減災学術連携委員会における取組について

5) その他

< 資料 >

資料1 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会（第24期・第1回）議事要旨（案）

資料2 公開シンポジウム「2017年九州北部豪雨災害と今後の対策」事後報告書

資料3 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会の後継体制について

資料4 【要綱改正（新旧対照表）】防災減災・災害復興に関する学術連携委員会

資料5 「防災減災学術連携委員会と防災学術連携体の連絡会」開催案

資料6 緊急事態における日本学術会議の活動に関する指針

議事

1) 前回議事録案の確認

・田村幹事より、資料1に基づき前回議事要旨（案）について説明があり、確認の後承認された。

2) 公開シンポジウム「2017年九州北部豪雨災害と今後の対策」の開催報告

・田村幹事より、資料2「シンポジウム等の概要について（事後報告）」に基づき、シンポジウム「2017年九州北部豪雨災害と今後の対策」に関する報告が行われた。

・続いて、依田委員より、別途配布資料「レポート：『2017年九州北部豪雨災害と今後の対

策』の説明が行われた。

[意見交換]

- ・インフラのソリューションは地域によって異なる。流れていい橋、流してはならない橋があることを痛感した。
- ・これを機会に、新しい橋梁工学のテーマとして、例えば、「動ける橋」があれば、災害が来ても流木を止めないですむかもしれない。

3) 次年度の防災減災学術連携委員会としての延長について

- ・続いて、米田委員長より、資料3「防災減災・災害復興に関する学術連携委員会の後継体制について」に基づき、学術連携委員会の後継体制について説明があった。
- ・続いて、渡辺委員より、課題別委員会の延長につき幹事会四役会議の方針の説明があった。

【本委員会の期限について】

[意見交換（四役会議の方針に関して）]

- ・四役会議で案を作成し、幹事会懇談会で第24期の課題別委員会について議論している中で、本委員会については継続して24期の最後までやるべきという話になっている。その先の継続性も重要との指摘があり、それについては、それが終わった時点で次の期に対し継続が必要との申し送りをし、基本的には期が変わってその期で決定していただくのがよいということが、幹事会懇談会で話し合われた。
- ・規則上常設委員会は、分野別と機能別の委員会で、他の委員会と分科会は常設になっていないので期末でリセットする。
- ・申し送り事項は、議事録なりきちんと文章で残しておいてもらうのがよい。

【緊急事態における日学の活動について】

- ・続いて渡辺委員より、資料6「緊急事態における日本学術会議の活動に関する方針」を参考に、緊急事態の際の（具体的な）活動を進めていくことが幹事会懇談会で話し合われたことの説明が行われ、4月の総会時には決まるように進めたい、との話があった。

[意見交換]

- ・これは自然災害だけではなく、テロなど様々な事態を想定したものであり、幹事会で作成していただくのはあり難い。

【委員会設置について】

- ・次に事務局より、資料4「防災減災・災害復興に関する学術連携委員会設置要綱」に基づき、学術連携委員会の設置について説明が行われた。

[意見交換]

- ・新旧対照表により修正した部分だけ幹事会の先生方に示すというのではなく、前後の部分を含めて出来上がったもの（1頁程度）を出した方がよいのではないか。
- ・前後がわかった方が理解しやすいが、このままでも本委員会の意図は理解される。本委員会の重要性も皆さん理解されていると思う。

【委員の継続と辞任の手続き】

- ・続いて、机上配布資料「防災減災・災害復興に関する学術連携委員会（第24期・第2回）」について意見交換が行われた。

[意見交換]

- ・本委員会の規定では委員構成については書かれていないので、本委員会は「継続する」ということになる。従って、委員長が会長と副会長、委員に依頼するという手続きになるはず。

【継続委員に関する審議】

- ・渡辺委員及び中島委員の辞任希望があり、出席者により承認された。
- ・現行の委員9名のうち7名が継続ということになる。

→2月の幹事会で報告される予定

【新任追加委員候補に関する審議】

- ・次に、机上配布資料「(防災減災学術連携委員会) 委員推薦候補案」に基づき、新任委員候補について審議が行われた。
- ・この結果、分野横断的に第一部～第三部より13名の新任追加委員候補が決定し、今後就任の確認を行うこととなった。
- ・今後さらに追加することが可能なように、委員数の上限を「20」から「25」に増やすこととなった。

4) 次年度の防災減災学術連携委員会における取組について

- ・続いて、和田委員より、資料5「防災減災学術連携委員会『防災減災学術連携委員会と防災学術連携体の連絡会』開催案」に基づき説明が行われた。

[意見交換]

- ・委員会委員の自己紹介もやるとよい。
- ・個々の研究者の観測データを相互に共有・統合できることは望ましいが、政府の持っているデータとの突合せも必要で、政府と研究者間との協力も必要。そこを詰めていく必要はあ

る。政府の仕組みを理解した上で、学術連携体がどう関わるのかを検討することが重要。

- ・研究データの不確実性を学会が担保してあげる仕組みも重要。
- ・新しい委員会と政府関係者との連携のために、ミーティングを開催するとよい。
- ・(各委員のスケジュールを踏まえ、) 4月13日の午前中、4月19日の16:00-18:00、4月20日の午前中の3つで、今提案のあった政府との関係を検討する会を政府の担当者を招いて開くこととする。

(→委員会終了後メールにて委員候補者へのアンケートを行い、4月13日10時~12時に開催することとなった。)

(閉会)